

恭賀

田中酒造株式会社
代表取締役社長
田中一良

小樽興利株式会社
代表取締役
田嶋富美男

株式会社Sano
札幌ビル係係長
畑中史雄

小樽市民協約り大会実行委員会
委員長
長谷川貫二
会長
八幡誠
幹事長
東靖人
外役員一同

北海道銀行 小樽支店
理事支店長
西村仁

株式会社 おたる政寿司
代表取締役
中村全博

阿部建設株式会社
代表取締役
中野豊

北海道新聞小樽地区会(三)記念
会長
中一夫

三立機電株式会社
取締役会長
谷内馨一
代表取締役社長
吉田安伸

北海道万又(株)小樽支店
支店長
松永吉弘

山藤三陽印刷株式会社
代表取締役社長
松岡孝幸

住青神社
宮司
星野昭雄

株式会社クレオトラベル
代表取締役
舟渡克光

株式会社 福島工務店
代表取締役
福島正紘

株式会社 アートクリエイト
代表取締役
久末智章

スタジオアオトス
(有)フットハダ
代表取締役
濱田剛

北海道山港物産株式会社
代表取締役
山本一彦

株式会社アイケア小樽
代表取締役
安田友美子

御月おたる
代表取締役
森元勝章

小樽フードシステム株式会社
代表取締役
森熊秀夫

株式会社 家産サービス
代表取締役
村瀬満

株式会社 ホクト
代表取締役
宮本英司

宮井銀座店
企画副店長 サロン・宮井
代表
宮井保郎

小樽市商店街振興組合連合会
代表取締役
和田健夫

国立全法入小樽商科大字
代表取締役
和田健夫

北海道水道機材株式会社
代表取締役
吉原義憲

大ソーイング
代表取締役
山本和光

北海道美装株式会社
代表取締役
山本忠広

協和総合管理株式会社
代表取締役社長
山本秀明

北海道ファミリー株式会社
代表取締役
山本一博

北海道写真協会
小樽支部
代表
奥沢出張所

北陸銀行
小樽支店
代表
奥沢出張所

北洋銀行
小樽中央支店
小樽駅前支店
手宮支店
余市支店
岩内中央支店
岩内支店
倶知安支店

BAR BOTTA
代表
BAR BOTTA

ニチエー事務機販売
代表
ニチエー事務機販売

有限会社 光盛堂
代表
光盛堂

小樽道新文化センター
代表
小樽道新文化センター

■ **新たな小樽の魅力 アマチュア写真展 (2017/01/04)**

ツイート

小樽市総合博物館本館(手宮1)は、1月4日(水)から2月19日(日)まで、企画展「路地裏の貌」関連の写真展「あなたは小樽を知っていますか？」を同館2階回廊で開いている。

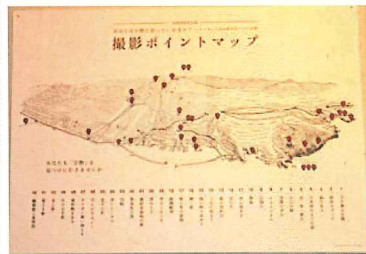
市内で活躍するアマチュア写真家・真柄利香氏が、2014(平成26)年秋から2016(平成28)年初冬までの32枚(A3カラー)を展示。真柄氏が撮影した画像を集めた手製のアルバム2冊も会場で見ることができる。



小樽の日常の在りきたりの風景とは違った、真柄氏が季節や天気、時間を計算して狙った、小樽の住民でありながら知らない小樽を画像で紹介している。

この企画展は画像を楽しむだけでなく、紹介された撮影スポットに出かけてもらいたい思いから、笹原薫氏が書いた鳥瞰図(マップ)と一緒に展示し、展示されている画像がどこで撮影されたかを分かりやすく紹介。さらに、真柄氏の長女の協力で、撮影スポットを掲載したGoogleMapを作成し、配布用のマップにあるQRコードを読み取り、ピンをクリックすると撮影年月日や内容が分かる。

現在開催中の企画展「路地裏の貌」は、写真家・兵庫勝人氏独自の目線で、昭和50年代の小樽の路地裏を撮影。遺された5,000枚以上の中から、その一部と小樽商科大学の学生が今の小樽を撮影し比較展示し、街の変化を紹介している。



企画展を主催する同館・石川直章館長は、「企画展では、兵庫氏しか撮らない1970年代の小樽を題材に撮影し、小樽の姿を残している。この写真展は、知らない場所ではないが見たことのない光景が並び、小樽に暮らしている人でも知らない小樽を真柄氏が切り取ってくれている。見方を変えるとすごい光景が見られる」と話した。

画像を提供した真柄氏は、東京出身で小樽に移住して21年。写真歴5年。早朝から星が見える時間まで、これを撮影したいと狙いを定めたらすぐに行動に移し、仕事の合間をみても精力的

に活動している。

会場の展示中の画像には、塩谷海岸での引き潮の文様、オタモイ海岸駐車場で星と稲光と漁火を、忍路漁港では期間限定の湾に沈む夕日を、夕日の撮影スポットで知られる祝津パノラマ展望台からは月にスポットを当て、昇る月や月齢2の細い沈む月を撮影。夜景スポットの天狗山山頂からは、早朝4:00雲海を独り占めし、小樽港正面から太陽が昇る時期でもあり、黄金色の雲に覆われその下を通る船を捉え、星景作品など見事な光景を捉えた作品が並ぶ。

今回の写真展について真柄氏は、「サブタイトルにある"アマチュア写真"がみつけた宝物"のみつけたと言うよりは、みつげに行ったがあてはまり、吹雪いているときは荒々しい海が、夏至の頃の太陽が昇る位置など、天気や時期・時間によってどのように見えるか、かなり計算して撮影に出かけている。



もちろん、偶然出会った宝物もあり、嵐だったが突然雲が切れて月が出たり、雪あかりの路の会場で頭上にオリオン座が見えたり、いつも通る道でも、空を見上げたり足元を見たりすると、意外なところに宝物があることに気づいたのは、一眼レフで撮影を始めたから。

イメージ通りの写真が撮れなかった時は悔しいが、撮影に行かなくて撮れなかった悔しさよりはまだまだと思う。良く見る風景が、季節や時間・天気によって、こんなにも表情が変わることを画像を通じて伝え、皆さんも小樽の撮影に出かけてみませんか？」と話す。

企画展「路地裏の貌」1970年代と2016年の小樽
同館本館2階企画展示室 3月26日(日)まで

企画展関連事業
写真展「あなたは小樽を知っていますか？アマチュア写真家が見つけた宝物」
同館本館2階回廊 1月4日(水)～2月19日(日)

企画展関連事業ワークショップ「魅力を伝える、魅力を見つける展示解説の手法」
同館本館2階企画展示室 1月29日(日)10:30～12:00
講師:磯崎亜矢子氏(西村計雄記念美術館学芸員)